



アーカイブズと地域史料 —地域文書館として—



講師：辻川 敦
尼崎市立歴史博物館
あまがさきアーカイブズ

1 はじめに テーマ設定について

〔本セミナーのテーマ〕

地域の歴史を後世に伝えるために

(セミナー開催要領の趣旨文より)

「全国の自治体において、歴史的に重要な公文書や地域史料を残し、その保存・活用を行っていくことは、大きな課題となっています。

しかし、さまざまな制約がある中で、特に基礎自治体においては、思うようにこれらの保存・活用が広がっていない現実があります。

本会では、その答えを見つけるためのヒントを、基調講演、報告の中から探っていきます」

〔公文書館の定義、本質的機能・役割①〕

母体組織記録の選別・保存・公開活用が原則

「一般に文書館というのは、行政機関、企業、団体など、さまざまな組織体あるいは個人が、その活動のなかで作成したり受取ったりしたナマの文書記録を、永久保存して一般の利用に供する施設のことです。」

安藤正人
『草の根文書館の思想』
(岩田書院ブックレット3、
1998)



〔公文書館の定義、本質的機能・役割②〕

「文書館 archives 史料が保存され、閲覧利用できる建物。または建物の一部。

文書館資料 archival material 文書館が、所蔵・収蔵している古文書、公文書などの資料。中心となるのは親機関から引き継ぐ資料だが、地域文書館などの場合には、地域から収集する資料が文書館資料のもう1つの柱となる。

全史料協監修『文書館用語集』大阪大学出版会
1997

自治体の
行政組織



歴史的公文書
(組織アーカイブズ)



地域
(自治体の区域)



地域史料
(収集アーカイブズ)



〔参考〕

地域史料をめぐるかつての日本のアーカイブズ界
における議論について

辻川「日本のアーカイブズの30年を振り返るー公文書と地域史料を
めぐってー」全史料協『記録と史料』第30号 2020.3

議論の背景として、

- 1980年代以降の欧米アーカイブズ理論の輸入
- 欧米理論に学ぶ母体組織記録重視の原則的文書館論の隆盛
- 文書館運動・アーキビストが直面した、従来の史料保存運動・歴史学からの自立という命題
- 地域史料収集を敵視する過度に硬直した原則的文書館論の出現（1990年代～21世紀初頭）

○本日の講義タイトル

「アーカイブズと地域史料—地域文書館として—」

〔地域文書館論〕

1980年代後半以降、埼玉県八潮市立資料館の遠藤忠氏や神奈川県藤沢市文書館の高野修氏らが、地域での実践を踏まえて提起。母体組織記録と地域史料保存を同等に重視することで、欧米理論と地域における現実の調和・両立を図った理論。

参考文献

- 埼玉縣市町村史編さん連絡協議会編『地域文書館の設立に向けて』同協議会 1987
- 高野修『地域文書館論』岩田書院 1995

自治体の
行政組織

地域
(自治体の区域)

同等に重視＝地域文書館論

歴史的公文書
(組織アーカイブズ)

地域史料
(収集アーカイブズ)

母体組織記録原則



○地域文書館論から浮かび上がる、自治体文書館の2つの機能・役割

①組織アーカイブズとしての側面

公文書 歴史的アカウンタビリティ
行政施策・組織運営への貢献

②地域文書館としての側面

地域の歴史資料の幅広い保全と利用公開
地域の歴史学習や調査研究に資する

2つの側面は、とりあえずはかなり異なる機能・役割というイメージだが、両者はまったく別物か？

→ 多様性をキーワードに両者の関係性をとらえ直すことで、現代社会における地域アーカイブズの機能・役割を考える。 **本日の講義テーマ**

2 尼崎市立歴史博物館地域研究史料室 "あまがさきアーカイブズ"について



尼崎市立歴史博物館

令和2年（2020）10月開設

市立地域研究史料館と市立文化財収蔵庫を統合
旧市立尼崎高等女学校建物（昭和13年築）を
リニューアルして活用

地域研究史料室"あまがさきアーカイブズ"

市立地域研究史料館の機能・スタッフを受け継ぐ
尼崎市の公文書館機能を担う



史料を探す

あまがさきアーカイブズでは、尼崎地域の歴史に関する文書・記録・史料類を幅広く集めています。所蔵史料は種類ごとにグループ分けされており、それぞれ検索や閲覧利用の方法が異なりますので、こちらでご案内します。



古文書・近現代文書類



歴史的公文書



図書・雑誌



地図



写真



絵はがき



ビラ・ポスター



音響・映像資料



マイクロフィルム

歴史的公文書や古文書・近現代文書、地図、写真、刊
行物など、尼崎地域の歴史に関わるさまざまな文字記
録史料を保存・公開

〔重視していること〕

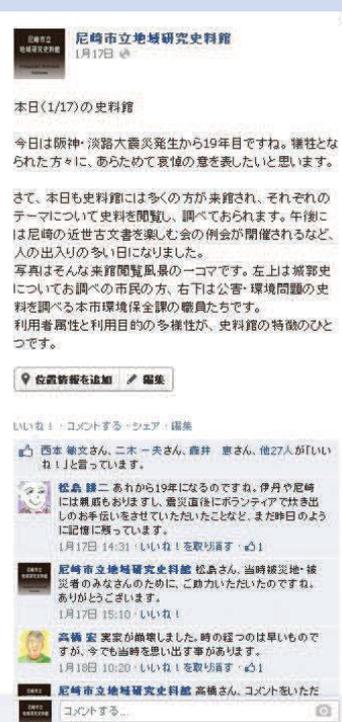


1 閲覧利用、レファレンスサービス

2 情報発信（SNS活用等）

3 歴史と地域をめぐる、市民や行政のさまざまな営みへの参加・協力
（博物館で言う教育プログラム、アウトリーチ的な取り組み）

基本は閲覧利用

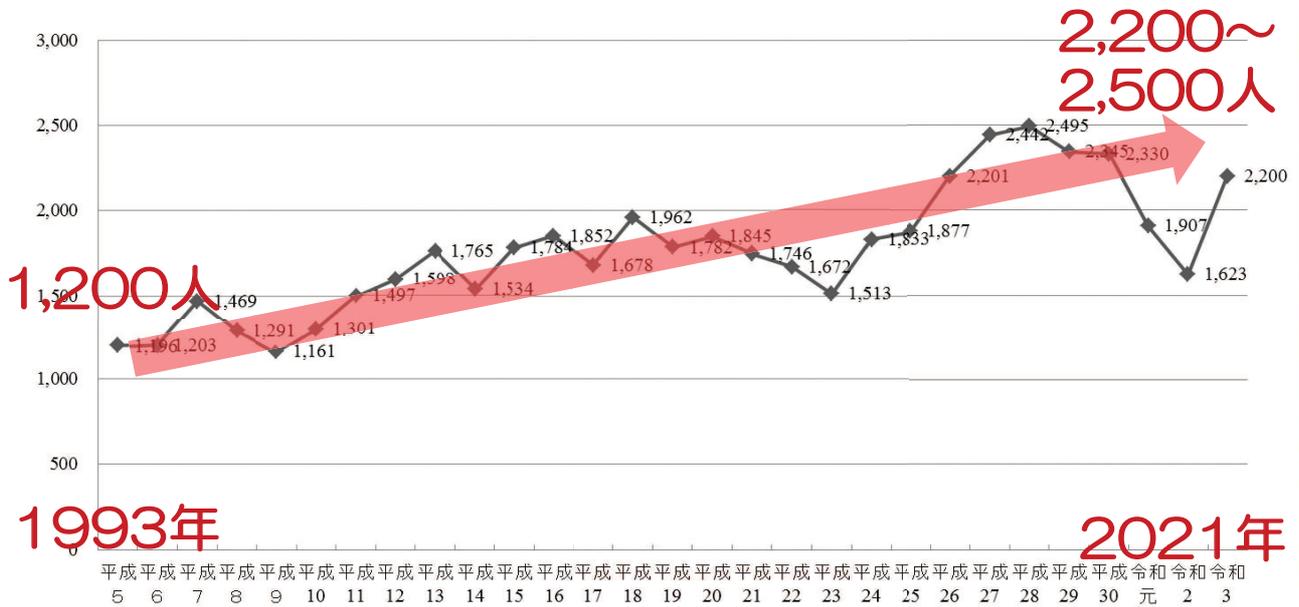


ある日の閲覧室（公式 Facebook より）

年間レファレンスサービス人数の変化

レファレンスデータをデータベースに記録し、
情報を共有して日々の業務に活用しています。

年度ごとの相談利用人数の変化(地域研究史料館～あまがさきアーカイブズ)



3 あまがさきアーカイブズの利用



利用内容・テーマ・ユーザーの多様性

過去



伝統的な歴史遺産
への関心と学び



歴史
文化



地域資源を学び
活かす



現実的
課題

環境汚染や自然
災害を学び克服
する



近代化や建築遺産
への関心



現在

過去



古文書、絵図
近代の歴史的公文書

歴史
文化



地図、写真史料
現代の資料
データベース



的



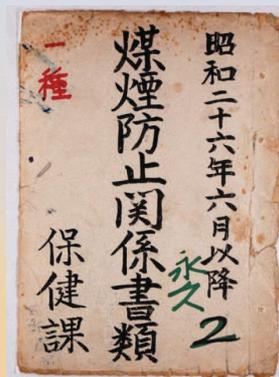
現仕

〔公害問題〕 比較的現在に近い過去の現実的課題（行政課題、地域課題）の実例



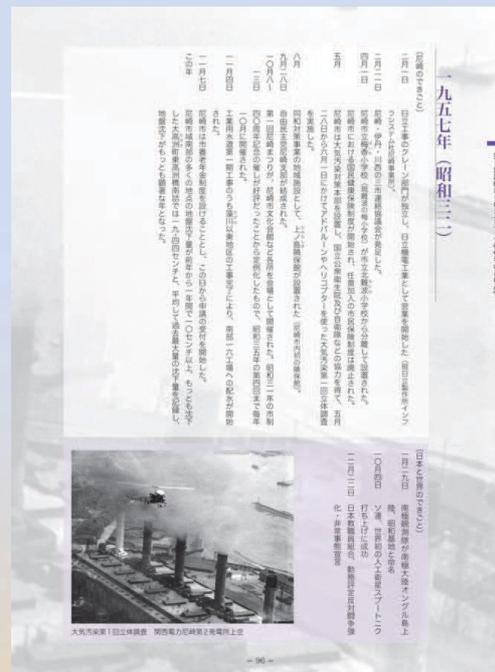
尼崎市はかつて、深刻な公害被害にみまわれた歴史がある。

被害実態や対策に関する公文書や、市民運動・裁判の資料などを収集・保存している。



かつて、市職員として公害対策に携わった浅野悟郎（あさのgorou）さん

「当時、多くの市民の方が公害問題について声をあげ、それを受けて企業や行政も対策をとってきました。資料をアーカイブ化し、当時の記録を誰もが利用できるようにすれば、将来にとって大いに役立つと思います」



公害の資料や証言は、公害の歴史を学ぶさまざまな取り組みに活用されており、市史にも収録した。



アーカイブズの史料を活用した新「尼崎市史」のシンポジウムで
 パネラーで尼崎南部再生研究室の綱本武雄（つなもとたけお）さん



綱本さんのコメント

「まちづくり情報誌の記事を書くために史料館を利用しています。事実確認をお願いしたり、専門的なお話をうかがったり…私は目的があるときに史料館に行きますが、実は総合文化センターのなかのあの場所だけが、史料館というわけではないんですよ。ほかの場所でも、講座やフィールドワーク的な活動をされています。市民のみなさんが参加できる史料整理のボランティア作業もあります」

(史料館＝あまがさきアーカイブズの前身の地域研究史料館)

閲覧室で調べる



館内

研究会、学習会などに参加する



歴史文化



データベースを検索する

現実的課題



講座や学校の授業、
などに参加する



展示企画、ワークショップ

館外



4 歴史資料・歴史情報の活用



あまがさきアーカイブズ・あまがさきキューズモールコラボイベント
プロフェッショナルトーク

〔実例として〕 尼崎城の建設と寄贈

尼崎城

建ちます。



平成30年秋
竣工予定
平成31年春
開館予定

尼崎城プロジェクト進行中
AMAGASAKI

平成27年11月、家電量販店の創業者である安保 詮氏から、創業の地である尼崎市において尼崎城を建築し、市に寄付するご意向が示され、尼崎城址公園に建築することが決まりました。現在進行中の城内まちづくり事業と一体的に、城内地区の玄関口にふさわしい景観形成・空間整備を図り、新たな都市イメージ構築と市民の誇り（シビックプライド）の醸成を図っていきます。また、観光地域づくりを進めています。




展示イメージ

お問い合わせ 尼崎市役所 城内まちづくり推進課
TEL: 06-6489-6147 ama-shiro@city.amagasaki.hyogo.jp

尼崎城プロジェクト進行中

1周年記念

一口城主 寄附募集



一足踏み町 完成



尼崎城「歴史タイムス」



中江島公園開館準備中



平成28年11月、完成



平成29年10月、完成



平成30年10月、完成



平成30年10月、完成





護美（ごみ）奉行
刀型のトングを使ってクリーン活動

てらまちプロジェクト、
今年度もはじまります。

TERAMACHI

てらまち

キャラバンミーティング

開催日程	
第1回	2018 8/29 水
第2回	2018 9/1 土 30 日
第3回	2018 10/17 水
第4回	2018 11/15 木
第5回	2018 12/15 土

市民・地元企業・行政等による、尼崎城に連動した地域活性化の取り組み



学習活動やワークショップ



寺町・大覚寺にて



創作講談



市総合計画審議会への出講



地域別のまちづくり計画検討のための勉強会への出講



令和2年度出講実績 22件28回

- ・市民団体・地域団体等 7件9回
- ・行政・学校等公的機関 15件19回

このほか、日常的な団体・個人・学校などとの連携・協力

5 まとめ

①多様な利用目的 多様な利用のあり方

- ・過去の行政の検証、歴史的アカウントビリティだけがアーカイブズに求められるわけではない。
- ・行政施策・課題にこたえる場合においても、組織由来記録のみで対応できるわけではない。
- ・現実的課題や歴史的アカウントビリティからオーソドックスな歴史文化まで、館内利用・レファレンスからアウトリーチまで、多様な利用目的やあり方は相互につながり、関連し合っている。



5 まとめ

②アーカイブズに求められる機能・役割

- 多様な利用に応じる多様な史料の保存・公開
多様な情報資源の構築・公開
- レファレンスサービスの重要性
- 多様な機能を担い専門スタッフ
＝アーキビストの重要性
- 歴史文化から行政課題などの現実的課題まで、
過去から現在までの多様な営みをつなげる場作りへの貢献、コーディネーターとしての役割



〔アーカイブズとして、
何が達成されるのか〕

- 1 利用実績
専門家・非専門家を問わず、多様な
利用者による幅広い利用
- 2 行政課題への貢献
地域課題、協働、庁内利用等々
- 3 実績に裏打ちされた、施設・事業の
存在意義への理解と認識の獲得

〔地域社会、市民社会
として、何が達成さ
れるのか〕



- 1 地域の歴史・文化に対する学びと理解
- 2 公文書や地域史料などの多様な歴史情報資源の活用を通じて、まちづくりをはじめとする地域課題の解決

地域社会、市民社会の形成・構築

2021年度公文書館
機能普及セミナー



アーカイブズと地域史料
—地域文書館として—

おわり



講師：辻川 敦
尼崎市立歴史博物館
あまがさきアーカイブズ